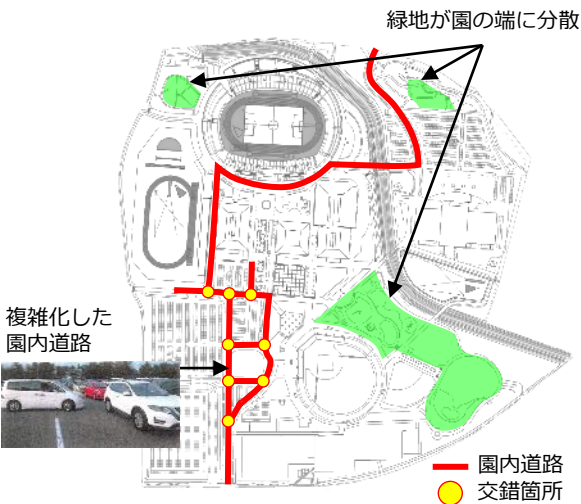


西部緑地公園再整備構想案

概要版

現状・課題

- 段階的な拡張整備の結果、**園内道路が園地を分断・複雑化**している
- 緑地が園の端に分散し、遊具も少なく**、県民の憩いの場、子どもの遊び場としては課題



公園（緑地、駐車場等）

- 園路や駐車場に**案内標識や路面標示等がなく**、利便性が低い
- 駐車場で**大きな混雑が発生した日は、年間10日程度**と繁閑差が激しい

〔駐車場滞留台数調査〕

調査時期：令和4年5～11月
計測日数：214日間（平日143、土日祝71）

滞留台数	平日	土日祝
0～500台	126日	27日
500～1,000台	11日	13日
1,000～1,500台	2日	16日
1,500～2,000台	1日	7日
2,000～2,500台	1日	2日
2,500～3,000台	2日	3日
3,000～3,500台	—	3日

滞留台数が2,000台を超えると駐車場が混雑し始める

- 天候が悪い冬期間は、利用者が極めて少ない**
→12月から3月までの利用者数は、年間利用者数の10%弱
- 金沢市の天気は、**1年の約半分が雨天**
→東京都より年間の日照時間は約1割短く、降水量は約3割多い

〔金沢市〕

日照時間計 1,714.1時間/年、降水量計 2,401.5mm/年

〔東京都〕

日照時間計 1,926.7時間/年、降水量計 1,598.2mm/年

順位	都市名	日数
第1位	富山市	178.3
第2位	金沢市	177.3
第3位	秋田市	173.8
第4位	新潟市	171.5
第5位	福井市	171.5
	：	
第33位	東京都区部	102.5

〔1mm以上〕の降水量を観測する年間平年日数 気象庁平年値1991～2020年(30年間)の平均値

県立野球場

- 築後45年以上が経過し、**老朽化が進行**
- 室内練習場や諸室などが不十分**
- 障害者や女子選手**の利用を想定した整備がなされていない

産業展示館

- 築後45年以上が経過し、**老朽化が進行**
- 展示スペースが足りず、出展を断っている**イベントもある
- セミナーや商談に使用する**会議室が不足**
- 来館者等の**滞留空間、休憩・くつろぎスペースが不足**

県民アンケート

期間：令和4年10～11月
回答：2,391件

男性 1,358
女性 990
無回答 43

※30代以下の若い世代からの回答が半数(52%)

第5位

健康づくりにつながるスポーツ等が楽しめる施設

第5位

様々な屋外イベントを催すことができる工夫

第1位

飲食店等の施設

第1位

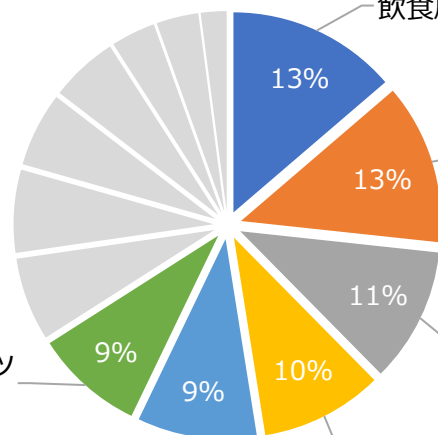
天候に左右されず一年を通して楽しめる工夫

第3位

アーバンスポーツが楽しめる施設

第4位

子育て世代が楽しめる工夫



検討委員、民間事業者の指摘 / 再整備の方向性

	指摘内容	再整備の方向性
公園のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が日常的に訪れる公園とすべき (検討委員) ・公園とは豊かな自然環境の中で誰もが憩い集える空間であるべき (検討委員) ・良い景色、心地よい緑地空間といった公園本来の機能を整えた上で、展示施設やスポーツ施設等を収めるべき (検討委員) ・緑豊かな空間を中心に野球場や産業展示館等がつながると良い (検討委員) ・緑地と産業展示館及び野球場との一体性・調和をより高めると公園全体がさらに良くなる (検討委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑地空間を公園中央部に整備 ■ 緑地と施設の一体感を醸成 緑地を中心に、車道を渡ることなく、園内全施設を回遊可能
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代から天気が悪いと遊びに行く場所がないとよく聞く。天候に左右されず一年を通して楽しめる工夫が必要 (検討委員) ・雨天、猛暑日も遊べる屋内遊戯施設は必要。野外と一体的に活用できると利用者満足度が高い施設となる (民間事業者) ・子どもが飽きずに遊ぶためには多様な機能を備えた遊具を設置すると良い (民間事業者) ・スケートボードなどアーバンスポーツへの対応が必要 (検討委員) ・アーバンスポーツパークは、来園した子どもの目に触れることで競技振興にもつながるため、緑地空間付近に配置した方が良い (民間事業者) ・雨雪や猛暑による利用者減の防止のため、屋根は必要 (民間事業者) ・広大な敷地を活かしてランニングロード等を整備すると良い (検討委員) ・熱中症防止のため、日陰や庇等がある場所を走れるようにすべき (民間事業者) ・多目的広場を臨時駐車場として利用するなど、園内をフレキシブルに利用する工夫も大事 (検討委員) ・多目的広場にもカフェ等があった方が良い (民間事業者) ・明治時代に兼六園が公園となった際、園内の茶店が徽軫灯籠をシンボルにしてプロモーションしたように民間の力を活用することも大切 (検討委員) ・派手なことが出来そうにない公園でも、Park-PFIで民間の賑わい施設を導入している (検討委員) ・便益施設(飲食店舗等)は、車が園外道路から直接進入できる位置が良い。ロードサイドであれば、建設費・管理運営費を含めて独立採算の可能性はある (民間事業者) ・カフェ等は周囲の景観との調和が重要のため、緑地空間に点在させた位置も検討すべき (民間事業者) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 屋内こども遊戯施設の整備 幅広い年代の子どもたちが、体を思いきり動かして楽しむことができる空間づくり ■ アーバンスポーツパークの整備 緑地空間に隣接して配置することで多くの人がプレーを見れる ■ ランニングロードの整備 車両と交差せず、園内の景観を楽しみながら走れるコースを設定 ■ 多目的広場の整備 大規模イベント時は臨時駐車場としても活用 ■ 民間便利施設を設置 (カフェ、レストラン等) 幹線道路と緑地空間の双方からアクセスしやすくし利便性を向上
必要な機能		

検討委員、民間事業者の指摘 / 再整備の方向性

	指摘内容	再整備の方向性
園内動線・駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>歩行者と車が出会わないことが公園の魅力</u>であることから園内動線は工夫すること (検討委員) ・ <u>周回道路を公園外周に整備</u>し、歩行者と車の交差を極力少なくした方が良い (民間事業者) ・ 混雑緩和対策として、<u>周回道路の整備</u>や<u>出入口の増設</u>などを検討した方が良い (検討委員) ・ <u>駐車場は現有台数(約3,500台)程度は必要</u> (検討委員) ・ 立体駐車場は再整備後に需要を見てから整備することもできる (民間事業者) ・ 金沢駅から離れており、<u>自家用車以外での公園へのアクセス</u>が課題 (検討委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>周回道路の整備</u> 輻輳箇所の解消 ■ <u>北側出入口の常設化</u> ■ <u>交通案内の充実強化</u> ■ <u>平面駐車場</u>で現有台数程度を確保 ■ <u>シャトルバス専用レーン、シェアサイクルステーション</u>の設置
県立野球場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野球場のサイズ及び観客収容人数は、<u>プロ野球の公式戦が誘致できる</u>ようにすべき (検討委員) ・ 座席数を増やすことは維持管理費の増大につながる。2万人規模の野球場でもプロ野球誘致の実績はある。人口減少社会においては、<u>座席数は抑制的であるべき</u> (民間事業者) ・ <u>障がい者が高齢者に配慮</u>した野球場とすべき (検討委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>観客席数の拡大</u> ■ <u>甲子園球場のグラウンドと同じサイズ、形状、芝、土</u>
産業展示館	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大規模な展示空間</u>を整備するとともに、イベントの規模に応じて分割利用できると良い (検討委員) ・ 展示面積を4号館と合わせて2万㎡確保することで開催できるイベントの幅が広がる (民間事業者) ・ 複数催事の同時開催時も、各来場者のスムーズな動線を確保できる<u>十分なホワイエが必要</u> (民間事業者) ・ <u>公園との一体感が必要</u>。例えば、屋根付き半屋外スペースがあると、屋外イベントでの利用や隣接する公園との一体的な利活用が可能となる (民間事業者) ・ カフェ、飲食店は民間提案エリアに入るのであれば不要 (民間事業者) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>展示面積の拡大</u> ■ <u>十分な共用・交流スペース</u>

前回構想骨子案

(令和5年4月)



今回（構想案）



<主な改良点>

① 周回道路を公園外周に配置

緑地を中心に車道を渡ることなく園内全施設を回遊可能に。公園の一体感を向上。

② アーバンスポーツパークを緑地に隣接

多くの人々がプレーを見れるようにする。

③ 魅力的な遊びの空間を創出

屋内こども遊戯施設、親水空間、屋外遊具を近接させ、一体的な遊びの空間を創出。

④ 屋内こども遊戯施設は野球場外野スタンド下の空間への設置も検討

遊具は斬新で本格的なものにする。

⑤ 民間利便施設を緑地に隣接

幹線道路、緑地空間の双方から利用しやすくし利便性を高める。

コンセプト

心地よい緑と夢の空間

ポイント1

いつも訪れたいくなる緑豊かな心地よい空間

■緑地空間（芝生広場、木陰）

- ・心地よい大きく開放的な芝生広場、安らぎある木陰



緑地・緑陰空間

■親水空間

- ・園内に潤いをもたらし、入っても遊べる場



親水空間

■築山

- ・変化に富んだ空間、公園の面白さを創出
- ・子どもたちは起伏を活かした遊びも



築山

■緑地を中心としたレイアウトによる一体感溢れる公園

- ・歩車分離の徹底により、中央の緑地を中心に車道を渡ることなく、園内施設を回遊可能

ポイント2

優れたプレー環境を備えるスポーツ空間

■新県立野球場 ※詳細は別ページ

- ・観客席数の拡大
- ・甲子園球場のグラウンドと同じサイズ、形状、芝、土



スケートボードパーク

■アーバンスポーツパーク

（スケートボード、BMX、スポーツクライミング）

- ・スケートボードパーク（初中級者用）
- ・ボルダリング・リード施設（大会開催可能）



スポーツクライミング

■ランニングロード

- ・車道と交差しない2km・1km程度の2コース



ランニングロード

ポイント3

多彩な催しで未来を創造するイベント空間

■新産業展示館 ※詳細は別ページ

- ・展示面積の拡大
- ・ホワイエ、会議室など共用・交流空間の充実

■多目的広場

- ・イベントやスポーツ、キッチンカーなど様々なニーズに柔軟に対応し、大規模イベント開催時は臨時駐車場としても活用



イベント



キッチンカー

ポイント4

いつも人が集う楽しく便利な賑わい・交流空間

■屋内子ども遊戯施設

- ・雨や雪の日でも子どもが遊べる空間
- ・斬新で本格的な遊具を取り入れ、設置場所は野球場外野スタンド下への設置も検討



大型ネット遊具

■屋外遊具

- ・斬新で本格的なものを導入



斬新な遊具

■民間便利施設

- ・幹線道路と緑地空間の双方からアクセスし易いものとし、利便性を高める



カフェ



レストラン

交通円滑化

■周回道路等

- ・園内道路は公園を分断しないよう、園の外縁部をリング状にとりまわす
- ・出入口の増設

■駐車場等

- ・現有台数(3,500台)程度を確保するとともに、周回道路沿いに分散配置
- ・ゆとりある駐車場
- ・案内サインの充実



ゆとりある
駐車場



満空表示

■その他

- ・シャトルバス専用レーンやシェアサイクルステーションを設置

時代の要請

デジタル化、インクルーシブ、カーボンニュートラル、民間との協創

コンセプト

子どもたちが夢と希望を抱く野球場

コンセプトを実現するための5つのポイント

1 球児の憧れである「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境の創出

- ・甲子園球場のグラウンドと同じサイズ、形状、芝、土
- ・観客席数を5千席増（2.2万席）

2 選手ファーストでの施設整備

- ・ダッグアウトにロッカールームを複数設置
- ・十分な広さの室内練習場の設置 等

3 誰もが楽しく観戦できる環境整備

- ・熱中症対策や雨天対応のため、観客席に屋根を設置
- ・車イス用観覧スペースの設置 等

4 環境負荷軽減・ユニバーサルデザインによる施設整備

- ・太陽光発電設備、LED照明の導入や雨水・地下水の活用
- ・エレベータや車イス用観覧スペースの設置 等

5 賑わいの創出

- ・外野席を芝生化し周辺の緑地とつなげて公園との一体感を創出
- ・外野スタンド下の空間に屋内こども遊戯施設の設置を検討

コンセプト

多彩な催しで賑わい・交流の生まれる展示場

コンセプトを実現するための3つのポイント

1 展示機能等を強化した使い勝手の良い空間

- ・展示面積の拡大
（現1～3号館：1.1万㎡ → 1.3万㎡（現4号館と合わせて2万㎡））
- ・2つの展示ホールを設け、間仕切で分割利用可能
- ・イベント時の来場者等の滞留空間となるホワイエ・会議室など共用・交流空間の充実 等

2 公園内の施設としての特色を活かして賑わい・交流を創出する空間

- ・公園利用者も気軽に立ち寄り、休憩やくつろぐことが可能なホワイエの整備（再掲）
- ・公園（緑地空間）につながる大屋根スペースの整備

3 時代の要請に対応した利便性の高い空間

- ・太陽光発電設備、LED照明の導入や雨水利用
- ・高密度Wi-FiなどICTの導入
- ・防災拠点として必要な機能の確保 等

コンセプト 心地よい緑と夢の空間

特徴1

いつも訪れたいくなる
緑豊かな心地よい空間

緑地空間

- ・緑地を中央に集約・大型化
- ・車道を渡らず、各施設を周遊でき、公園の一体感を醸成

特徴2

多彩な催しで未来を
創造するイベント空間

多目的広場

多彩な屋外イベントが可能なスペース

新産業展示館

- ・展示面積の拡大
- ・十分な共用・交流スペース

特徴5

交通円滑化

周回道路

輻輳箇所の解消

出入口増設

増設
出入口

特徴3

優れたプレー環境を
備えるスポーツ空間

新県立野球場

- ・甲子園球場と同じサイズ、形状、芝、土
- ・観客席数の拡大

ランニングロード、 ランニングステーション、 アーバンスポーツパーク

スケートボード、BMX、スポーツ
ライミング

特徴4

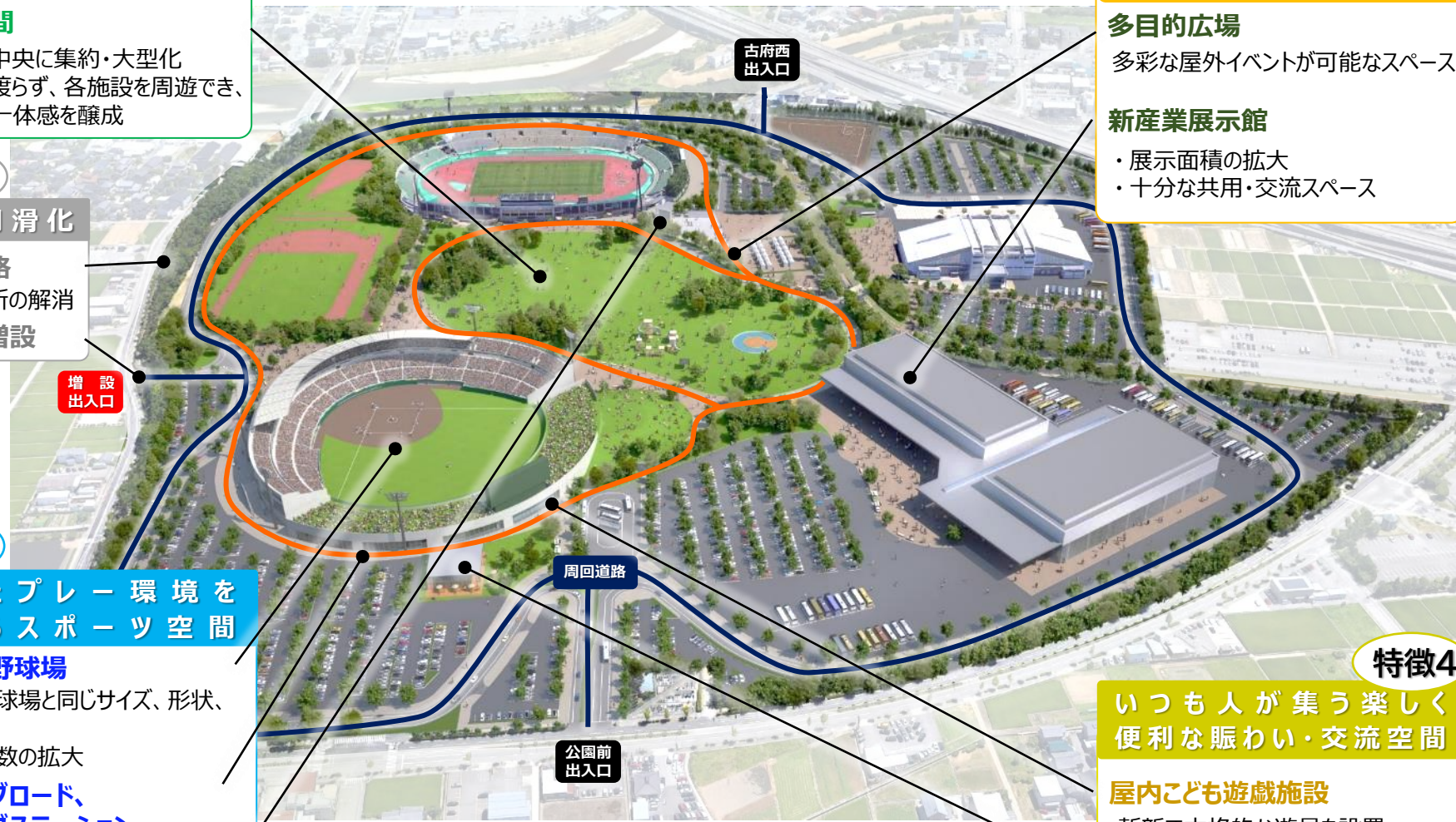
いつも人が集う楽しく
便利な賑わい・交流空間

屋内子ども遊戯施設

斬新で本格的な遊具を設置

民間便利施設

カフェ、レストラン等



**本再整備構想の事業化に向けた具体のスケジュールについては、
地震の影響を踏まえ検討する。**

1. 西部緑地公園再整備構想検討委員会等の

設置・運営

- ・ R4.8～9月
検討委員会・両部会の設置
第1回検討委員会・両部会の開催
→議題： 現状・課題
- ・ R4.12月
第2回検討委員会・両部会の開催
→議題： 再整備の方向性
- ・ R5. 4月
第3回検討委員会・両部会の開催
→議題： 骨子案
- ・ R6. 3月（持ち回り）
第4回検討委員会・両部会の開催
→議題： 構想案とりまとめ

2. 県民アンケート調査

R4.10～11月

Web及び現地にてアンケート実施
(2,391件)

3. マーケットサウンディング調査

- ・ R5. 8月
アンケート実施（37社）
- ・ R5. 9月
個別ヒアリング（19社）

4. 県議会での議論

R4.9月～R5.12月で26回の質疑